

「寺子屋子ども食堂・王子」を視察

令和3(2021)年4月12日、山東昭子参議院議長、上野通子参議院議員、今井絵理子参議院議員は、東京都北区にある「寺子屋子ども食堂・王子」を訪問。子供たちへの学習支援や居場所づくりなどの取り組みを視察しました。



学習室には検温をした上、マスク着用で入室

勉強を教える子ども食堂 リタイア世代の生きがいに

近年、日本における子供の貧困が問題視されています。貧困家庭で育った子供たちが十分な教育を受けられず、低学歴から非正規労働者となり、自身も生活困窮者となる。貧困の連鎖も指摘されています。また、子供の貧困はふたり親家庭に比べてひとり親、特に母子家庭で起こる確率が高く、周囲の人からは見えづらく、なかなか気付かれないことが支援を一層難しくしています。

大手企業で執行役員を務めていた島村勝巳さんは、平成17(2005)年に定年退職し、障害者を支援する活動に携わっていました。親の経済的理

由などさまざまな困難に直面する子供たちも支援したいと、高校時代の仲間を集め、平成30(2018)年9月にNPO法人を設立しました。自ら理事長となり、「寺子屋子ども食堂・王子(以下、寺子屋)」をオープン。食堂と銘打っていますが、主な活動は学習支援です。毎週月曜と木曜の放課後、NPOスタッフや学生ボランティアが約30人の小・中学生に勉強を教えています。

今回の視察は、このような画期的な取り組みを進める島村理事長の呼び掛けに応じ、有志議員により行われました。視察の際の懇談会では、島村



青森県六戸町の食材を使い、食育にもこだわったお弁当



今井絵理子参議院議員

上野通子参議院議員

山東昭子参議院議長



島村勝巳理事長

視察に同行した、地元選出の高木啓衆議院議員(写真右)と、山田加奈子東京都議会議員(写真左)

理事長が寺子屋の現状を報告しました。昨年2月、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、政府が学校の一斉休校を要請したことにより、寺子屋も休業を余儀なくされました。ここに通う子供たちの保護者は、半分以上がシングルマザー。仕事はテレワークができない、祖父母は遠くに住んでいるなど、子供の面倒を見られないと困惑する母親が多く、島村理事長は支援の必要性を実感しました。

そこで寺子屋では、一度に集まる人数を従来の半分にするのとや、勉強の時間を短縮するなどの対策を講じ、6月に活動を再開。中学生には端末機器やWiFiルーターなどを準備し、オンライン授業も取り入れました。夕食はこれまで仕入れたお弁当をみんなで一緒に食べていましたが、現在は各自家に持ち帰って食べるなど感染防止に努めています。

島村理事長は子供支援について「われわれのようなリタイアした世代に最適の仕事ではないか」と思います。メリットがある

のは、子供たちよりもむしろ私たち。子供と接することで元気をもらい、勉強を教えることで頭をリフレッシュできます。運営上、行政や学校、社会福祉協会、町内会、民生委員など、これまで接点のなかった方々と関わることで刺激をもらい、良いことばかりです」と話しました。

続いて北区役所、北区教育委員会、北区社会福祉協議会が、生活困窮者への支援、子供たちへの学習支援や居場所づくり、オンライン授業の推進、子ども食堂のネットワークづくりなど、それぞれ活動中の取り組みを紹介しました。

上野通子参議院議員は「寺子屋の先生たちは、教師やITのプロ、弁護士、学生など、さまざまな人材が務めています。まさに、共に育む、共育を実現されていて素晴らしいですね。子供たちがこれからの時代を生き抜くには、何のために学んでいるのかを自覚し、しっかりと目標を持つことが大事。それには、周囲からの刺激が欠かせま

せん。寺子屋はその意味で大変
有意義な活動をされていると感
じました」と語りました。

近は大人が、おせっかいしづ
らい風潮があり、道端で子供た
ちに声を掛けることが少なくな
りました。窮屈な世の中になっ



ていると感じます。その中で寺
子屋や北区の取り組みは、子供
たちのことを真剣に考えている
と思いました。今後は、寺子屋
に通う子供の他にもいるであら

子供たちが学ぶ懸命な姿を目の当たりに 支援が循環する地域を目指して

懇談会の後、一行は実際に授
業が行われている学習室へ移動
しました。小学生と中学生の授
業を視察し、保護者とも面会。
子供たちに配られるものと同じ
お弁当を試食しました。

視察を終えた上野参議院議員
は「食堂と寺子屋の合体、つま
り養育現場と教育現場が一緒に
なった形が実現し、子ども食堂
が進化しているのだと驚きまし
た。また、家が居場所になっ
ていない子供も多いことを改めて
実感しました。教室はにぎやか
でしたが、その中でもみんなし
っかり勉強に集中できていまし
た。子供には静かに勉強できる
個室が必要だと思っていました
が、必ずしもそうではない。子
供が学ぶ本当の姿を目の当たり

にし、感動しました」と熱く語
りました。

今井参議院議員は「食と教育
にも取り組んでいる活動を
視察できて、うれしく思います。
新型コロナウイルス感染症の影
響で、大変厳しい状況にいる子
供たち、シングルマザー、シン
グルファーザーに充実した支援
を実現されていると感じました。
このような一つの好事例を、ど
んどん全国に広げていけたら
いいと考えています」と視察を
振り返りました。

また、今回の視察に同行した
山東昭子参議院議長は「一人の
先生が一つのテーマで授業す
るのだと思っていましたが、子供
たちがそれぞれの課題に取り組
み、それに対して先生がアドバ



イスしていました。小さな塾の
ようで、丁寧な教え方だと感じ
ました」と、印象に残った点と
して授業方法を挙げました。
さらに「地域の、民間」の中
から寺子屋が生まれたのは、画
期的で素晴らしいことです。島
村理事長のように教育に情熱の
ある方がいなければなかなか実
現しないことですし、協力者に
若い世代がたくさんいらっしや
るので心強い限りです」と感想
を述べました。



学習支援の後、子供たちにお弁当を配布

では「今の子供たちは小さなこ
ろからスマホに触れている世代。
デジタル社会の中で学校でもオ
ンライン授業を取り入れ、非常
に進んできたと感じます。国と
してもさまざまなご意見を聞き
ながら教育のデジタル化に向け
た取り組みが進んでいくことを
期待しております」と述べまし
た。

島村理事長は今後の夢とし
て「経済的に厳しい家庭の子供
に、参考書代などとして毎月数
千円ずつ振り込む育英資金を設
立したい。そして
彼らが大学生にな
った時、この寺子
屋に戻ってきて子
供たちの面倒を見
てくれたらいいで
すね。そのように
地域で循環してい
けば、今私たちが
一生懸命活動して
いる意義があると
思います」と語り
ました。